

てくてく 東海道 宿場探訪マップ



川崎宿

神奈川宿

STEP 1

東海道 知っ得版



神奈川宿歴史の道

「神奈川宿歴史の道」は、当時の史跡を生かしつつ、道づくりと景観整備を新たに行い、神奈川宿を訪ね歩くことができる約4kmの歴史の散歩道としたものです。神奈川宿の様子を示す陶画があったり、歩道や街路灯には青海波(せいがいは)のデザインが施されるなどの工夫を随所に見ることができます。また、歩道に設置された車止めには、浦島伝説にちなんで亀がデザインされており、これをたどりながら楽しく神奈川宿を訪ね歩くことができます。



18 追分
東海道の名残ある芝生(しばう)村を過ぎたところが追分です。ここは東海道と八王子道の分岐点で、西に進めば保土ヶ谷宿へ、北西へ進めば八王子往還です。

18 浅間神社
浅間社(現浅間神社)は、神奈川宿の西隣である芝生(しばう)村の入口に建てられています。神社には、「富士の入口」と呼ばれる名所があり、すでに17世紀中頃の東海道名所記にその名が見えます。

17 関門の碑
開港後、外国人が相次いで發働されたため、各領領事の強い要望で横浜周辺に設けられたのが、開所である関門です。神奈川宿でも東西の2箇所につくられ、厳しい警備体制がかけられました。碑が残されているのは、西側、神奈川台の関門です。

16 大綱金刀比羅神社(一里塚跡)
江戸時代、この神社は神奈川湊に関わる人々の厚い信仰を受けていました。神奈川宿の一里塚は日本橋より7つ目の家で、江戸時代にはこの神社のすぐ脇、脇道をはさんだ両側にありました。

15 三寶寺
幕末、明治初期にかけて住職であった大熊弁玉は、歌人としても知られ文明開化の新事物を詠いました。

14 本覚寺(アメリカ領事館跡)
開港当時はアメリカ領事館にあてられました。日米修好通商条約でアメリカ公使ハリスとの交渉にあたった全権委員の一人、若潮忠義の顕彰碑が山門の脇に建てられています。

11 宗興寺
開港当時、アメリカ人宣教師で医者であったヘボン博士が、ここに診療所を開いていました。境内には、お天気井戸と呼ばれる大井戸があります。

幸ヶ谷公園
昔は権現山といわれ、中世の古戦場として知られていましたが、幕末には神奈川台場築造のために山が削られました。現在は桜の名所として親しまれています。

3 能満寺
鎌倉時代の創立とされています。この地の漁師が、海中から虚空蔵菩薩を拾い上げ、これを祀ったと伝えられています。

2 笠程稲荷神社
笠をかぶった人がこの神社の前を通ると、自然と笠が脱げてお参りをしたそうです。そのため笠脱稲荷と呼ばれるようになりました。その後、「笠脱」を「笠程」に改めたといわれています。

1 長延寺・見附跡(オランダ領事館跡)
昭和39年に移転するまで、ここに長延寺が建てられていました。開港当時、オランダ領事館にあてられました。このあたりは、神奈川宿への江戸からの入口にあたります。現在は公園になっています。

神奈川宿
Tokaido

景勝地「袖ヶ浦」を臨み、行楽地としても栄えた宿。



● 節分追儺式(笠程稲荷神社/2月節分)
年男・年女が町内を練り歩き、和歌を唱え、弓の弦を弾き豆を打って、悪鬼邪気を祓います。

※ 開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者へご確認ください。

神奈川の イベント情報

18 孤行寺
開港当時、一時フランス公使館にあてられていました。

12 普門寺
開港当時、イギリスの士官宿舎にあてられていました。

10 神奈川台場跡
伊予松山藩が勝海舟の技術指導を受け、完成させた開港当時の砲台跡です。現在は周囲が埋め立てられ、陸続きとなりましたが、当時は積壁のような形に海に突き出ていました。

9 慶運寺(フランス領事館跡)
浦島伝説ゆかりのものも多くあることから、浦島島とも呼ばれます。その中には、浦島太郎が亀宮からもちかえったという観音像も含まれています。

8 高札場の復元
幕府の法度や堀の書かれた札を掲げた場所が高札場です。神奈川宿では滝の川の左岸にありました。資料をもとに復元した当時の高札場を神奈川地区センター前で見ることができます。

5 金蔵院
金蔵院は、京都醍醐寺三寶院の開祖勝覺僧正により平安末期に創られた古刹です。徳川家康から十朱の朱印を許されました。

4 東光寺
太田道灌の和歌「海山をへだつ栗のお国より、放つ光はここもわらじ」が寺号の由来だと伝えられています。

6 熊野神社
平安時代に紀伊の熊野権現を招いたといわれる神社。江戸後期には、社殿の脇で神楽が舞われたり、御興がかけられたりと夜宮祭りで賑わいました。

7 成仏寺
開港当時、「ヘボン式ローマ字」で知られ、日本で最初の和英辞典を刊行したアメリカ人宣教師で医者でもあったヘボン博士の宿舎であった寺です。本堂の前には美しい庭が広がります。

10 神奈川台場跡
開港当時、一時フランス公使館にあてられていました。

昔の東海道は海に沿って延びており、「神奈川宿」には東海道有数の景勝地として知られる「袖ヶ浦」がありました。

また、湊と東海道を持つ交通の要衝として栄え、船人や旅人ももちろん、観光で訪れる客も数多く滞在。最盛期には近隣の宿の二倍の人口を抱えたといわれています。

神奈川宿は安政五年(一八五八年)の日米修好通商条約で開港の場として定められ、日本で最初に各国の領事館が置かれました。

神奈川宿歴史の道では、そんな当時の史跡の数多くが楽しめます。

安全・安心な道路利用のために

横浜国道事務所では、現在の国道1号・15号(一部区間を除く)をはじめとした、神奈川県内の主要な国道を管理し、皆さまの安全・安心な道路利用のために道路の維持・修繕などを行っています。

～道路交通安全の確保～

道路パトロールや通報などにより発見、確認された交通の安全確保など道路管理上、緊急的に措置が必要なものについて、応急的に処理(補修)を行っています。

路面のポットホール(穴)の補修状況

道路緊急ダイヤル 緊急通報 #9910へ (無料) 24時間受付

道路の異状を見つけたらご一報ください

緊急通報専用ダイヤル #9910へお電話ください

1. 警部 高速
2. その他の高速道路
3. それ以外の道路

※ 1. 緊急通報専用ダイヤル #9910へお電話ください
2. 緊急通報専用ダイヤル #9910へお電話ください
3. 緊急通報専用ダイヤル #9910へお電話ください

緊急通報以外の道路相談は道の相談室へ

「道の相談室」 ホームページアドレス
<https://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/road/michi/>

● 相談内容の回答についての関係する機関から後日回答となる場合もありますのでご了承ください。

発行:国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所
 〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2 TEL.045-311-2981

慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道の宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりの歳月が流れました。
慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に、里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。
さまざまな歴史を運んだ東海道。この道を読み、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめましょう。

東海道四百年の歩みを踏みしめる川崎宿

江戸を出て最初の休息地。厄除け大師への分かれ道。



現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約258km）を管理しています。道路を安全で快適に使用いただくために、日々の点検やパトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

宿場マップについて

東海道には53の宿場が（神奈川県内では9宿）ありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の「むかし」と「いま」が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。
なお、表示してありますルートは概ね旧東海道の沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

東海道 鶴見のよねまんじゅう

「六郷渡れば川崎の万年屋、鶴と亀とのよねまんじゅう」と歌にも歌われている鶴見の「よねまんじゅう」は小麦粉ではなく米の皮で造る包むのが新しく、人気を集めました。「よねまんじゅう」は現在、再現され販売されています。

宿場の施設とその役割紹介

【見附】宿場の門の役目として上方見附と江戸方見附があり、その間を「宿内」といいます。
【本陣と脇本陣】公家、大名、幕府の公用の役人だけが宿泊することができました。本陣に泊まりきれない場合は、脇本陣が使用されました。
【旅籠】一般の旅行者などが宿泊しました。
【茶屋】旅人の休息のためのお店です。
【問屋場】公用旅行者の荷物の運搬や飛脚の業務を取り扱うところです。※「しいやば」とんやばと番場によって読み方が異なる場合があります。
【高札場】幕府の掟やお触れを張り出すところで、人馬の代金も掲示されていました。
【一里塚】街道の両側に行程の目安として、一里ごとに小高く盛り土をして、目印の木が植えられていました。

東海道 鶴見のよねまんじゅう

キリン横浜ビアビレッジ
ビールの歴史から製造過程まで、楽しく学べます。またここでしか飲めないオリジナルビールがあり、レストランや緑地庭園で休憩できます。

17 東福寺

子育て観音として、著名な寺です。寺の一角に、芭蕉の句碑も残されています。

16 総持寺

曹洞宗の大本山。明治44年（1911年）に石川県の能登から移転しました。広くてなだらかな敷地内には20以上の建造物が立ち並び大伽藍があり、散策にも最適。大スター石原裕次郎の墓もあります。

15 鶴見神社

推古天皇時代の創建と伝えられ、昔は杉山大明神とも呼ばれていました。毎年、4月29日に民俗芸能「鶴見の田祭り」が行われます。

14 鶴見橋関門日跡

安政6年（1859年）の横浜開港後、外国人に危害を加えることを防ぐため横浜への主要道路筋に設けられた関門の一つで、万延元年（1860年）に設けられました。

13 市場一里塚

日本橋から5番目のもの。一里塚は街道をはさんだ両側にありますが、ここは南側の家だけが残されています。

12 専念寺

紫式部の念持仏と伝えられる「市場観音」が奉られています。富士山から飛んできたといわれる「夜光石」「お乳石」でも有名です。

11 熊野神社

徳川家康入国に際し、武運を祈った神社。社殿は赤地義士ゆかりの宮大工、渡辺喜右衛門及びその子孫により造営されました。境内には江戸時代の俳人加倉白雄と大島豊太が、鶴見橋を詠んだ句碑があります。

10 小土呂橋の親柱

かつて、東海道と新川堀の交差点にあった石橋が小土呂橋。現在は鶴見よとなり、地名とこの親柱が残っています。

9 妙遠寺

二ヶ領用水を完成させた小泉次大夫と二ヶ領用水を再興した中興の祖・田中休庵（兵庫）の偉業を称える「泉田二君功徳碑」があります。

8 佐藤本陣跡

宿内の本陣の一つで、十四代将軍家茂が上京の際、宿泊したといわれています。詩人、佐藤憲之助の生家でもあります。

7 稲毛神社

境内には樹齡一千年といわれる大銀杏や小土呂橋遺構、手洗石など川崎宿にまつわるものや、正岡子規、佐藤憲之助の歌碑などがあります。

6 宗三寺

宿内の一古刹。後北条氏の家臣であった間宮豊前守信盛が中興、その法名から宗三寺と名づけられました。

5 一行寺

川崎宿の整備が進む頃に開創し、閻魔信仰で大いに賑わいました。

4 田中本陣跡

当主の休庵（兵庫）は、六郷川の渡し舟の権利を譲り受け、その渡し賃を得て、傾いていた宿場財政を再建しました。享保6年（1721年）著した「民間省要」は、享保7年（1722年）八代将軍吉宗へ献上され、主張の一部は享保の改革でも取り上げられました。

3 六郷の渡し

慶長5年（1600年）、六郷川（多摩川）に六郷大橋がかけられました。貞享5年（1688年）に大洪水で流されたが、明治7年（1874年）まで、渡し舟による渡河が続けられました。明治元年（1868年）、明治天皇の東幸の際には、舟橋を架けました。また、ここは長十郎梨のふるさとといわれています。

2 万年屋跡

奈良茶飯が名物だった往時の河崎万年屋の賑わいは「江戸名所図会」にも描かれています。

1 川崎稲荷社

社殿の下にはいわれのあるケヤキの大木が眠っているといわれています。昔、ケヤキの大木を切ったところ、ケガ人が相次いだので、そのお慰めのために切り株の上に社殿が建てられたといわれています。享保元年（1716年）、徳川吉宗が八代将軍となるために江戸へ向かう途中、立ち寄りしました。

0 砂子の里資料館

東海道川崎宿をテーマにした資料館で、浮世絵を中心に様々な企画展を行っています。300年前の川崎宿の街並みの模型も展示されています。開館時間：10:00～17:00 休館日：日・祝日（展示品入替中は休館） 入場無料

